

柏崎刈羽原子力発電所にかかる特別委員会「福島行政視察」(1/25~27)

この特別委員会では、これまで3部会に分かれ柏崎で講演会を聴いたり、部会ごとに勉強会を開いたりして原発についての知識を増やしてきました。今回は柏崎市議全員で原発事故の現場、帰宅困難地域などを見学できることは大変貴重な経験でした。

議員全員での視察ができたことは、全員で同じ現場を自分の目で見たこと、その場の空気を感じたこと、現地の人の声を聴けたことなどが共有できることになり、よかったです。机上の知識としての勉強ではわからないことが経験できましたし、これから話し合いでは共通の話題で議論できるということになります。

柏崎刈羽の原発の再稼働等についてはいまだ不透明ですが、今回の行政視察で得たことは市民の皆様にお返ししていきたいと思います。



除染作業の様子

<行政視察をしての所感>

原発の安全神話が崩壊した今、柏崎市民が福島の現実をどう受け入れるか。様々な立場の人の話、様々な現場の状況を偏りなく伝えていかなければならぬと思いました。また、柏崎の未来が輝けるように適切に判断をくだせるように、優先順位を決めていくことが大切だと思いました。

柏崎市教育大綱

今回の定例会議の中、文教厚生常任委員会と総務常任委員会で「柏崎市教育大綱」が報告されました。柏崎市ではこの目標・方針のもと、教育活動が行われることになります。学校教育はもとより、様々なところでこれに則った「人づくり」が行われるということです。

「人づくり」は「まちづくり」につながり、それは「輝く未来をつくる」ことにつながっていきます。

<大綱の目標>

- ◎ふるさと柏崎に誇りと愛着を持つ人材を育てる
- ◎夢と希望に向かってたくましく生き抜く子どもを育てる

<大綱の方針>

- 安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進します
- 確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む教育を推進します
- 地域の自然、歴史、文化を生かした生涯学習を推進します
- スポーツの振興と市民の健康づくりを推進します

この大綱の期間は平成28年度から平成31年度までです。その後は新たな教育大綱が示されることになります。市の教育大綱は市長が策定することにはなっていますが、義務教育の「県の学校教育の重点」との整合性も取れています。市内の小中学校では、この大綱を受けた「学校教育実践上の努力点」を踏まえてグランドデザインがつくられています。

「重野まさき後援会」への入会を募集しています。ホームページからも入会できます。

後援会事務所 ☎0257-24-1671 ホームページ <http://www.m-shigeno.net> メール info@m-shigeno.net

★重野正毅はフェイスブックもしています★

人を、まちを、未来を、つなげる

重野まさき通信

第5号 平成28年4月18日発行

発行:重野まさき後援会
事務所:〒945-0072 柏崎市北園町19-47
連絡先:☎0257-24-1671
発行責任者:入澤 稔 [後援会内部討議資料]



新年度が始まりました。新しい環境での生活が始まつた方もいると思います。今年度も皆様にとってよき1年になることをお祈りいたします。

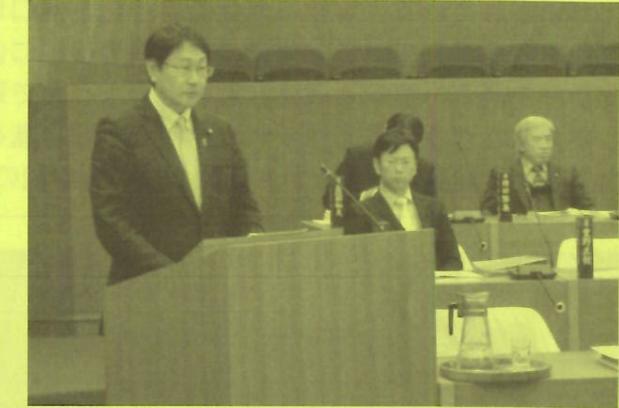
さて、私にとって2月定例会議を終えることで1年間の議会の流れを経験できました。ようやく先が見通せたように感じます。また、今年は国政、県知事、市長の選挙が夏以降立て続けてあり、議会活動以外でも慌ただしく感じられる年になりそうです。しかし、周りに流されることなく、しっかりと足を付けた市議会議員としての活動を今まで以上に誠実にこなしていきたいと思います。

2月定例会議終了

今回の定例会議は2月22日から3月25日までの長い期間の開催でした。次年度の予算・事業の審議が主でした。施策や事業にこの予算を配当した理由や背景などについて当局から説明を受けたり、質疑を交わしました。

<一般質問の内容>

1 柏崎市のエネルギー開発について



(質問要旨) 市のホームページにも掲載されている「バイオマスマタウン構想」。6年前に改定されているその後、社会情勢も様変わりしたこともあると思うが、この間の進展はどうであり、この構想自体への考え方への変化はあるか聞かせてほしい。また、この構想に提示してある事業は平成27年度にはすべて実施されていることになっている。その成果と評価を聞かせてほしい。今後、市としてはバイオマス関係にどのように関わっていくのか、国が推進しているバイオマス産業都市構想への進出はあるのか、一層推進していくのであればその具体的な計画があるか、など考えを教えてほしい。

(市長答弁抜粋) 温室効果ガス削減に対しては、再生可能エネルギーを大いに活用しなければならない。その一つとしてバイオマスの利活用がある。そのためバイオマスマタウン構想自体の考え方方に変化はない。バイオマスマタウン構想の6つの事業のうち4つの事業で事業化ができたことは一定の評価ができる。1つ目はメインと考える「自然環境浄化センターの下水汚泥を活用した消化ガス発電」を開始したこと。2つ目は「廃食用油からバイオディーゼル燃料を生成」して自動車や発電機の燃料としていること。3つ目は「未利用間伐材による木質ペレット」の製造と燃焼機器の普及推進をしていること。4つ目は「米やもみ殻を利用してバイオエタノールを生成」してグリーンガソリンとして自動車燃料とする実証実験を行ったこと。これは平成26年度で終了した。5つ目は「生ごみをたい肥化」して活用する事業で、これは民間で行っていること。6つ目は「バイオコークス」を実証実験したこと。しかしこれは事業化に至っていない。これらの成果や評価についてはホームページで公表している。柏崎市地球温暖化対策実行計画を平成28年度に改定することになっているので、その中でバイオマスマタウン構想をさらに発展させていく、バイオマスを活用した産業化を検討していく。バイオマスマタウン構想についても検討していく。

世界的な流れは、次世代のエネルギーとして再生可能エネルギーに視点を当て、省エネと併せて開発に力を入れていく方向性です。柏崎市でも赤坂山浄水場内の小水力発電や自然環境浄化センターの消化ガス発電などに取り組んでいますが、さらに本格的に、規模を大きくしていくことが必要だと考えます。

2 フッ化物洗口について

(質問要旨) 新潟県の12歳児の虫歯の平均本数は0.48本であり、柏崎市は0.66本である。全国平均は1.00本である。柏崎市の子どもの本数は多いと、ひどい状況だと言えるだろうか。多いからもっと減らすためにブラッシング指導だけでなく、別の方法を取り入れていくことが本当に必要なか疑問がある。また、フッ化物洗口と虫歯の本数には相関性はなく、フッ化物洗口で使用する薬品は劇薬扱いである。学校では本来の教育活動として劇薬を扱い、それを健康な子供たちの身に施していくようなものはない。フッ化物洗口の有効性が明白ではなく、学校での集団実施に困難が想定できている以上、県内での実施校が増えているという理由だけで、学校での集団実施はそこまで徹底的に進める必要はないと考えるがどうか。

(教育部長答弁抜粋) フッ化物洗口については、厚生労働省が作成したガイドラインで、永久歯に生え変わる4歳から14歳までの期間に実施することが、虫歯予防対策として最も大きな効果をもたらすことが示されている。学校におけるフッ化物洗口は、県内の長年の実績から虫歯の予防措置として効果があるものと考えている。保護者や地域の皆様に偏りのない情報を提供しながら、十分な説明を行い、アンケート調査で意向を確認し理解を得たうえで取り組みを進めたい。市内一斉の取り組みは、学校での説明をしながら理解を得られた学校から順次進めたいと考えている。人的配置は、理解が得られたところでは一定程度非常勤などを配置しながら学校の負担を少なくするなど進めたい。



このフッ化物洗口については、今年「フッ化物洗口を考える会」が市民の中に発足しました。フッ化物洗口のメリット・デメリットをしっかりと理解した上で、その本質を考えて、判断していくべきだと考えています。学校現場に任せて、何かトラブルがあつてから対応を考えるのでは遅すぎます。また、この会は、フッ化物洗口に正面から反対している会ではありません。今まであまり表面化してこなかった問題をみんなで勉強していこうとしている会です。今後の「勉強会」の日程等が決まりましたら私のホームページにて紹介しますので、ご確認ください。

3 潮風公園の整備について

(質問要旨) 「スポーツのまち柏崎」としてスポーツ振興に力を入れている柏崎市として、一つの象徴でもある陸上競技場の利活用の活性化を図るうえで、その周辺の整備にも力を入れる必要があると考える。まず、利用者が不便に感じている潮風公園の入り口や公園内に設置されている小屋に標示板を付けることは必要不可欠だと思うが、設置の計画はどうか。また、陸上競技場の周辺が他地域と著しく違っている状況の中で、少なくとも潮風公園のランニングコースの整備も必要不可欠なことだと思う。今後その計画を立て進めてほしいがどうか。

(教育長答弁抜粋) 潮風公園については現在平成26年度から4か年計画で県の補助事業により改修している。その工事の中では平成29年度に駐車場に設置してある大型案内板などを改修する予定になっているので、標示板等についてはこの工事にあわせて設置に向けて進めていく。ランニングコースの整備については、公園が保安林に指定されているため、公園内の散策通路をランニングの専用コースや競技用施設にすることは難しい。一般市民が安全に施設を使用でき、ランニングなどができる、陸上競技大会や普段の練習時に利用できるランニングコースの設定は今後も関係部署と検討していきたい。

看板設置は来年度には確実に実施できるようですが、ランニングコースの整備を含めて、「検討する」という教育長の言葉を前向きの答弁と受け止めたいと思います。

＜平成28年度の市政の事業等抜粋＞

常任委員会で当局から説明されたことや話題になったことを抜粋します。市には市民の方や事業所に補助金を出す事業もいろいろあります。あるいは、いろいろな相談窓口も設置されています。何かお困りのことを連絡くださればご案内します。



部署等	事業等
総合企画部	<ul style="list-style-type: none">新潟産業大学の公立化は今年度行わず、2千万円の補助はするが大学改革を求める。新庁舎整備事業として6月にはプロポーザルで設計業者を選定するとともに新庁舎周辺活性化検討も進める。
市民生活部	<ul style="list-style-type: none">防災情報通信システムをFMコミュニティ方式にしていく。全戸に受信機を設置する。ECO2プロジェクト事業、地球温暖化対策推進事業、スマートコミュニティ推進事業を行い、省エネ・再エネ設備導入促進や省エネ行動の推進を図る。
福祉保健部	<ul style="list-style-type: none">生活困窮者自立支援事業の一つとして6月から対象家庭の小中学生に学習支援を始める。単身老人等緊急通報装置設置事業として通報装置を今年度290台設置の予算あり。介護従事者人材確保・育成事業として働きながら資格を取ったり資格をもっている人の働き口補助を行っている。市役所内にナースセンターを設置し資格をもっている人への研修や仕事の斡旋を行っている。子どものフッ化物洗口の説明会を小中学生の保護者だけでなく市民を対象として7月頃行う。
産業振興部	<ul style="list-style-type: none">産業文化会館の改修工事を6月から3月まで行う。農村集落の維持を目的にしている多角的機能支払交付金事業に1億8千万円以上の予算が計上されている。
都市整備部	<ul style="list-style-type: none">市営北園町住宅、米山台住宅、松波町住宅の改修を行う。(北園町住宅改修には2億円計上)柏崎駅南口広場のトイレ、バス待合所、ロータリー、駐輪所などの整備を平成28年度末までに完成する。空き家対策事業として市内の空き家調査を行い、空き家等対策計画の策定に着手する。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none">児童クラブでは今後5年間のうちに6年生までを対象とするよう進めていく。市内小中学校へ介助員が26名、指導補助員が27名配置される。昨年度より増員された。陸上競技場は4月から有料化されており、利用者は管理人室隣の券売機で利用券を購入する。博物館はふるさと人物館と統合し、リニューアルされる。ソフィアセンターに学校読書支援員2名を配置し、全小学校に出向き読書環境整備を行う。ソフィアセンター開館20周年記念事業を7月6日に行う。
ガス水道局	<ul style="list-style-type: none">ガス事業を平成30年4月に民間譲渡を目指して譲渡先を選定する。柳橋、八坂、番神の柏崎市汚水中継ポンプ場改築更新・耐震補強工事と平井地区機能強化対策事業処理場・中継ポンプ更新工事を実施する。
消防	<ul style="list-style-type: none">消防西本町分遣所を東港町旧帝石アパート跡地に移転し、「西分署」とする。平成29年3月に竣工する。

*常任委員会や本会議で多くの議論が交わされ、一部の議案に反対した議員もいましたが、今回市当局から提出された議案、要望書などはすべて可決されました。

起立採決の様子

